

様 式 C - 1 9、F - 1 9、Z - 1 9 (共通)

科学研究費助成事業

研究成果報告書



平成 2 7 年 6 月 1 7 日現在

機関番号： 3 2 6 7 9

研究種目： 若手研究(B)

研究期間： 2011 ~ 2014

課題番号： 2 3 7 2 0 0 8 2

研究課題名 (和文) 邦人音楽作品の社会受容と高等音楽教育 レパートリー形成の観点から

研究課題名 (英文) Musical Works Composed by Japanese Composers -- Social Receptivity and Higher Music Education about

研究代表者

菅野 将典 (菅野雅紀) (SUGANO, MASANORI)

武蔵野音楽大学・音楽学部・講師

研究者番号： 1 0 5 8 3 5 1 0

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 2,700,000 円

研究成果の概要 (和文) : 邦人作曲家によるピアノ音楽作品は、国内の演奏会においても取り上げられることが少なく、敬遠されがちである。その理由のひとつに、前衛的な作曲手法が多く用いられ、演奏が困難とされていることがある。

本研究を通して、邦人ピアノ作品の普及には、大学をはじめとする高等音楽教育の過程においては、作曲家が参照している日本の民謡などの音楽文化について見識を広げること、また、19世紀に作られたさまざまなピアノ教本を発展させ、日本古来の旋法や移調の限られた旋法、あるいは7 = 9度の音程による練習を行うことが重要であることが明らかになった。

研究成果の概要 (英文) : Piano pieces composed by Japanese composers are fewly performed at concerts in Japan. In these piano pieces mostly contain avant-garde composition techniques including atonal, which is usually thought "difficulty" of technical skills and interpretations for most pianists. As the conclusion of this research, to spread the knowledge about Japanese traditional folk songs and children's songs helps pianists to understand and make an interpretations of Japanese contemporary piano music. Also, kinds of technical practice just the same like Liszt, Dohnanyi and Cortot, should be extended upto Japanese traditional musical modes, 'ritsuryo', MTL by Messiaen and intervals of 7th and 9th.

研究分野： 芸術一般 (音楽・ピアノ)

キーワード： ピアノ 邦人作曲家 演奏解釈 音楽指導法 演奏法 武満徹 間宮芳生 三善晃

1. 研究開始当初の背景

邦人作曲家による現代音楽の受容に関する研究は、聴衆や批評家に焦点があてられ、実際に演奏をする演奏家については注目されることがなかった。実際に音楽作品が受容されるためには、演奏される必要があるが、本研究以前には演奏家のレパートリーという観点からの指摘はなかった。

本研究代表者は、ピアニストとしての視点から、演奏実技と学術研究の両面から武満徹(1930~1996)の音楽作品について研究していたこともあり、その延長として演奏家および教育者としての視点から、邦人作曲家の音楽作品受容について研究をすることとした。

2. 研究の目的

本研究では、邦人現代音楽受容と教育の関係を明らかにすることが第1の目的であり、演奏実技指導における課題をどのように選択すべきかを明らかにすることが第2の目的であった。

これらを明らかにすることで、既存の音楽受容研究と相まって、邦人音楽作品の理解を深めると共に、新しく生まれつつある音楽作品の演奏指導法を確立することで邦人音楽作品の演奏家へのレパートリー化を推進する事が出来るものとする。延いては、広く西洋音楽全般において日本人としてのアイデンティティを確立し、日本の音楽文化をより活力あるものへと発展することに寄与することを目指している。

3. 研究の方法

(1) 邦人ピアノ作品の課題設定状況の調査
国内の音楽大学をはじめとする高等音楽教育において、邦人ピアノ作品が試験課題としてどのように設定されているか、また、国内外の音楽コンクールにおける課題設定状況を調査し、学生の取り組みの現状を把握する。

(2) 作品の分析と演奏解釈

これまでと、現在の高等音楽教育において演奏されている邦人ピアノ作品から、特徴的な作品を選び、その作曲過程と演奏解釈について分析を行い、指導において必要な事柄を明らかにする。

(3) 教材としての課題選択

さまざまなピアノ作品を比較分析すること、上記(2)において明らかになった事柄を学ぶために適切な課題となる作品を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 邦人ピアノ作品の課題設定状況

現在国内外で出版されている、邦人作曲家によるピアノ作品の情報を集約し、データベースとした。また、各音楽大学等で指導にあたっている先生方に、口頭でのヒアリング調査を行ったが、音楽大学等で課題として特定の

邦人ピアノ作品の演奏を課している現状はない現状が明らかになった。

一方のコンクールにおいては、カワイ音楽コンクール、PTNAピアノコンペティションの課題として、邦人ピアノ作品の演奏が課されているほか、浜松国際ピアノコンクールでは、毎回、新作の委嘱を行っており、これらの課題となることで出版が潤滑に進められていることが明らかになった。かつては、音楽大学の入学試験課題として、新作委嘱が行われた例もあり、ほかの音楽コンクールでも新作委嘱が行われていたが、現在では、主に子供のためのコンクールと、国際コンクールの一課題としてのみ課されている現状が明らかになった。

また、平成23年度のオルレアン国際20世紀音楽ピアノコンクール(フランス・オルレアン)では、邦人作品を含め、さまざまな前衛的作品が演奏されていたが、これらの作品を多く演奏する上では、音を塊として捉え(トーンクラスターの)理解していくこと、また、細部の省略ということが重要なキーとなっていることが明らかになった。

(2) 作品の分析と演奏解釈

日本を代表する作曲家である、武満徹、間宮芳生、三善晃などのピアノ作品を分析しながら、演奏解釈の可能性を探究した。

間宮芳生は、その作品の素材として童謡や民謡を多く用いており、素材となる童謡や民謡の理解が第一に重要であった。三善晃の場合も、《子守唄》(1977)などで、日本で古くから伝承される子守唄との関係が重要であり、西洋的な子守唄とは異なる、守子といわれる少女たちの生活ぶりや文化を理解することで、作品理解が深まることが分かった。

武満徹の場合は、作品の着想源がより抽象的であり、とりわけ、後期に至る過程で「2と水」の美的意識に冠する独創的な思索が作品理解に欠かせないことが明らかになった。

(3) 童謡や民謡の理解のための学習課題

童謡や民謡を素材としたピアノ作品の理解には、素材となる音楽そのものの学習が必要であるだけでなく、これらの素材がどのようにピアノ作品として昇華されているかを理解することが重要である。

本研究では子供でも演奏可能な邦人作曲家作品を積極的に取り上げている「カワイ音楽コンクール」「カワイこどもコンクール」での課題を分析し、西洋の諸作品(グレゴリオ聖歌からシューマン、ドビュッシーなど)を素材とした邦人作品と、日本の伝統的な音楽や文化(祭り、土人形など)を素材とした作品に分類した。

これら子供のための作品を分析する過程で、とりわけ重要であったのが、間宮芳生の「にほんのこども」である。ここでは、ひとつの民謡素材に対して、徐々に難易度と複雑さを増した変奏が提示されているだけでなく、演

奏会用作品《前奏曲集》(1977)でも同じ素材が用いられており、民謡素材が純粋なピアノ音楽作品に昇華されていく過程を学ぶことが出来る貴重な作品であることがわかった。

(4) 演奏技術課題のための学習課題

邦人作曲家によるピアノ作品のうち、特に演奏会用作品として書かれたものには、無調性で作曲されたものが少なくない。このため、旧来の調性的な音楽作品には表れることのない様々な音型が生じており、技術的な難易度が高まっている。

松平頼則の《日本の旋法によるピアノのための練習曲集》(1970)では、4度音型を基礎としており、実際に他の邦人作曲家の作品に同じ技術パターンが生じていることが明らかになった。

他方、旧来のピアノ教育において重要な役割を果たしているハノンに代表される教本は、調性的な音楽を演奏するために最適化されていることが分かった。実際、リストやコルター、ドホナーニなどの技巧的練習は、19世紀以前の様々なピアノ作品を演奏するに当たって必要な技術パターンを網羅しており、教本に従って学習することで、演奏会用作品を演奏するための技術を習得することが出来るようになっていた。

その一方、20世紀につくられた新しい音楽作品では、このような旧来の教本では網羅できていない技術パターンが含まれている。さまざまな前衛的作品の分析の結果、日本古来の呂旋法、律旋法に基づく新しい技巧練習、メシアンの移調の限られた旋法による技巧練習、また、7=9度音程による技巧練習課題を新たに創作することとした。新たな練習課題の創作にあたっては、リスト、コルター、ドホナーニの教材に共通する学習手法を用い、効率的な習得を目指した。

(5) 研究成果の実践と発表

各論文の執筆、学会発表のほか、平成24年2月2日にカワイ表参道「パウゼ」にて、邦人ピアノ作品についてのレクチャー・コンサート(1回目)を実施した。また、平成24年1月28日に旭川市・大雪クリスタルホールにて「奏でる彫刻たち」(演奏業績)、平成24年3月18日に東京・白寿ホールにて「ピアノリサイタル」(演奏業績)、平成24年11月16日にカワイ表参道「パウゼ」にて演奏実践と講義「Dコンサート3(満席の盛況)」平成25年8月2日には武蔵野音楽大学社会人のための夏期講習にて邦人作曲家作品に冠する講座、平成25年10月~平成26年3月にはコンクール課題に取り組む学生への教育指導実践(のべ70名以上)、平成27年3月8日には汐留ベビシユタイン・サロン特別音楽講座において、邦人ピアノ作品の演奏のための練習課題についての講座を行い、各参加者に向けて、研究成果の印刷、配布を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

- (1) 武満徹における「2」と「水」の美学：空間語法と時間語法の観点から(東京藝術大学音楽学部紀要、38巻、2013年、1-16頁、112-113頁)

〔学会発表〕(計 3件)

- (1) 日本音楽表現学会全国大会(第10回)武満徹における2つのテンポ、2012年6月24日、山梨大学甲府キャンパス
- (2) 日本音楽表現学会全国大会(第11回)ピアノ教材としての邦人作曲家作品に関する試論、2013年6月9日、盛岡市民文化ホール&アイーナ
- (3) 日本音楽表現学会全国大会(第12回)邦人ピアノ作品における練習課題についての考察、2014年6月22日、帝塚山大学学園前キャンパス

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://kawai-kmf.com/concert-info/2012/02.02/>

<http://www.geidai.ac.jp/rc/music/html/event1-03.html>

<http://www.lib.geidai.ac.jp/MBULL/38Sugano.pdf>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

菅野将典(菅野雅紀) (SUGANO, Masanori)
武蔵野音楽大学 音楽学部 講師
研究者番号：10583510

(2)研究分担者

(3)連携研究者